作品ID	書名	内容	所有	出版社
148	(1) 橘花の	江戸鎌倉河岸にある酒問屋の看板娘・しほ。ある日、武州浪人であり唯一の肉親である父が斬殺されるという事件が起きる。相手の御家人は特にお構いなしとなった上、事件の原因となった橘の鉢を売り物に商売を始めると聞いたしほの胸に無念の炎が宿るのだった……。しほを慕う政次、亮吉、彦四郎や、金座裏の岡っ引き宗五郎親分との人情味あふれる交流を通じて、江戸の町に繰り広げられる事件の数々を描く連作時		ハルキ文庫
149	(2) 政次、	江戸松坂屋の隠居松六は、手代政次を従えた年始回りの帰途、剣客に襲われる。襲撃時、松六が漏らした「あの日から十四年……亡霊が未だ現れる」という言葉に、かつて幕閣を揺るがせた若年寄田沼意知暗殺事件の影を見た金座裏の宗五郎親分は、現在と過去を結ぶ謎の解明に乗り出した。一方、負傷した松六への責任を感じた政次も、ひとり行動を開始するのだが――。鎌倉河岸を舞台とした事件の数々を通じて描く、好評シリーズ第二弾。	○	ハルキ文庫
150	(3) 御金蔵	戸田川の渡しで金座の手代・助蔵の斬殺死体が見つかった。小判改鋳に伴う任務に極秘裏に携わっていた助蔵の死によって，新小判の意匠が何者かの手に渡れば，江戸幕府の貨幣制度に危機が――。金座長官・後藤庄三郎から命を受け，捜査に乗り出した金座裏の宗五郎だが，事件の背後には金座をめぐる養奸計が渦巻いていた……。鎌倉河岸に繰り広げられる事件の数々と人情模様を描く，好評シリーズ第三弾。		ハルキ文庫

151	(4) 暴れ彦	亡き両親の故郷である川越しに出立することになった豊島屋の看板娘しほ。彼女が乗る船まで見送りに向かった政次，亮吉，彦四郎の三人だったが，その船上には彦四郎を目にして驚きの色を見せる老人の姿があった。やがて彦四郎は謎の刺客集団に襲われることになるのだが……。金座裏の宗五郎親分やその手先たちとともに，彦四郎が自ら事件の探索に乗り出す！ 鎌倉河岸捕物控シリーズ	○	ハルキ文庫
152	(5) 古町殺	徳川家康･秀忠に付き従って江戸に移住してきた開幕以来の江戸町民、いわゆる古町町人が、幕府より招かれる「御能拝見」を前にして立て続けに殺された。自らも古町町人である金座裏の宗五郎をも襲う刺客の影！　将軍家御目見格の彼らばかりが狙われるのは一体なぜなのか？　将軍家斉も臨席する御能拝見に会わせるかのごとき不穏な企みが見え隠れするのだが……。鎌倉河岸捕物控シ		ハルキ文庫
153	(6) 引き札屋おもん		○	ハルキ文庫